

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	0 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
中項目	
小項目	0.0.1 建学の精神・教育理念が確立していること。
要素	建学の精神が確立し明確に示されているか。 教育理念が確立し明確に示されているか。
小項目	0.0.2 教育目的・教育目標が明確であり点検の努力がみられること。
要素	教育目的もしくは教育目標が全学的に示されているか。 教育目的もしくは教育目標は定期的に点検されているか。 教育目的もしくは教育目標はどのような手続きで点検されているか。
小項目	0.0.3 教育目的・教育目標が共通に理解される努力がみられること。
要素	教育目的や教育目標を全学的に学生や教職員が共有するために具体的な施策を行っているか。 日頃から教育目的や教育目標を実現し共有するための具体的な施策について理事会や教授会で議論しているか。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 建学の精神および教育理念を関西学院のミッションステートメントのなかで再確認し、記載方法、内容を再検討し、本学の教育・研究等あらゆる活動の指標とする。	→建学の精神、教育理念の記載方法および内容の再検討の進捗状況。	D
2. 学生、教職員対象のオリエンテーション、学校礼拝、研修プログラム等とおして、本学のミッション、建学の精神、歴史を学内で共有する。また大学案内パンフレット、教育懇談会、実習協議会、入試説明会等とおして、学外への周知を図る。	→オリエンテーション、学校礼拝、研修プログラム、教育懇談会、実習協議会、入試説明会の実施状況。大学案内パンフレットの記載内容の検討の進捗状況。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

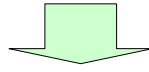
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(建学の精神・教育理念) ・建学の精神：関西学院の建学の精神であるキリスト教主義に基づき、聖和短期大学は、神が私たち一人ひとりを愛してくださっていることを知り、イエス・キリストが示された生き方になって、他者—特に幼い者や社会的に弱くされた者たち—に仕える働き人を養成するために建てられている。 ・教育理念：ここに集う一人ひとりの全人的で調和のとれた成熟のために、3つのH—Head：真理の探究、Heart：自分を愛し人を愛する心、Hand：奉仕と実践—を大切にする。
☆ 小項目0.0.2	(教育目標)キリスト教精神に基づく豊かな人間性、専門性、実践力を兼ね備えた保育者の育成
☆ 小項目0.0.3	入学時のオリエンテーション、学校礼拝、行事等とおして、学生、教職員への周知を図っているため、建学の精神、教育理念、教育目標の共有は概ねできている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	建学の精神・教育理念は確立しており、学生に配布する『要覧』等に明示し、また入学時のオリエンテーションや学校礼拝等をおして学生、教職員に説明している。
小項目0.0.2	教育目標は、学生に配布する『要覧』等に明示され、入学時のオリエンテーション、学校礼拝等をおして学生、教職員に説明している。
小項目0.0.3	毎日行われている学校礼拝は、宗教主事だけでなく学生有志、教職員、卒業生が協力して企画、担当しており、おのずと本学の建学の精神、教育理念、教育目標に関わるメッセージが伝えられている。
その他	



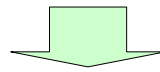
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	新入生への周知だけでなく、在学生、教職員が建学の精神・教育理念への理解をさらに深めることができるよう、オリエンテーション、学校礼拝等の内容、方法を再検討する。
小項目0.0.2	新入生への周知だけでなく、在学生、教職員が教育目標への理解をさらに深めることができるよう、オリエンテーションや学校礼拝等の内容、方法を再検討する。
小項目0.0.3	卒業、就職に向けて、在学生に対する建学の精神、教育理念、教育目標の意味を再確認する方策の検討
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	建学の精神・教育理念は確立しているが、合併後、関西学院のミッションステートメントとの調整ができていない。
小項目0.0.2	2009年度は定期的な点検を実施できなかった。
小項目0.0.3	本学の教育理念・教育目標について外部への発信があまりできていない。また以前は教職員研修会が毎年開催され、そのテーマや内容には建学の精神・教育理念とともに本学の教育目標が反映されていたが、合併前後は開催していない。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	学院のミッションステートメントの中で本学の建学の精神、教育理念を確認し、要覧等への記載内容、方法を再検討する。
小項目0.0.2	建学の精神・教育理念と同様に、関西学院のミッションステートメントとの調整を行う。
小項目0.0.3	保護者を対象とした教育懇談会、実習関係先との実習協議会、非常勤講師との懇談会等で説明を行う。また教職員研修会等の開催を検討する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

小項目0.0.3	その他 (自由記述)
----------	---------------

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

○建学の精神・教育理念さらに教育目標は、すでに一般に理解されやすいように明確に体系化されており、その上内容を学内外に発信する努力が継続的になされていることは評価できます。加えて、関西学院のミッションステートメントとの調整という課題についても順次計画的に進められています。ただ、合併については、学内外から大きな期待と注目が寄せられているだけに、その調整作業をさらにスピードアップさせることが期待されます。特に、地域社会や諸施設に向けた広報活動を新しい内容でより迅速に行うことは、特に実習や研修を必要とする実践力を備えた保育者の育成という目標の実現に資すると思います。

○《◎改善すべき事項 【点検・評価 (2)】 改善すべき事項》の小項目0.0.1では「建学の精神・教育理念は確立している」「関西学院のミッションステートメントとの調整ができていない。」とありますが、《【次年度に向けた方策 (2)】改善方策》の小項目0.0.1では「教育理念を確認し」、小項目0.0.2では「関西学院のミッションステートメントとの調整を行う。」とあります。一致していない箇所を見つけ出し、一本化するのか2本立てで行くのかをまず決めなければならないのではないのでしょうか。

○《【次年度に向けた方策 (2)】改善方策》の小項目0.0.3では「説明を行う」とありますが、その効果は何によって改善したと評価するのか基準が明確ではありません。

【学内委員】

○建学の精神、教育理念は確立しており明確です。小項目0.0.1の要素では示されていませんが、学内外への周知について記載願えればと思います。要素の「示されているか」はこのことを聞いていると思います。効果が上がっている事項の記述を現状説明でなされれば良いかと思います。その際、ホームページでの周知についてもお示してください。

○建学の精神・教育理念、および教育目標は書かれていますが、小項目0.0.1、0.0.2の現状説明が記述されていません。効果が上がっている事項と改善すべき事項に記述されている内容を、現状説明にうつすなどによって、説明することが求められます。

○自己点検・評価は、社会にわかり易く説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思います。

○小項目0.0.2は「点検の努力」についても聞いています。これについての現状説明が必要かと思います。

○建学の精神、教育理念、教育目標、教育目的の周知はその測定方法が難しいのですが、測定方法を確立され、定期的な点検、改善を行なってください。

○小項目0.0.3において「概ねできている」とされていますが、目標の2の進捗評価は「C」です。整合性は取れているのでしょうか。

○効果が上がっている事項は、全て現状説明ではないのでしょうか。

○伸ばさせるための事項、改善方法は、「(再)検討」するなど曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

○問題点などは把握されています。改善に期待します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目0.0.1現状説明に次の文章を追加する。「建学の精神・教育理念は学生に配付する『要覧』等に明示し、入学式、卒業式、オリエンテーション、学校礼拝等を通して学生、教職員に伝えている。また、学外に対しては、各種パンフレット、ホームページ等で周知を図っている」

★

小項目0.0.2現状説明に次の文章を追加する。「教育目標は、学生に配付する『要覧』等に明示し、入学時のオリエンテーション、学校礼拝等を通して学生、教職員に説明している」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	1 教育の内容
中項目	
小項目	1.0.1 教育課程が体系的に編成されていること
要素	教育課程には建学の精神や教育理念が反映され、またその内容はそれぞれの学科等の教育目的や教育目標に基づいたものであるか。 教育課程には教養教育への取組みがなされているか。 教育課程は短期大学の専門教育として十分な内容を備えているか。 教育課程の主要な科目に専任教員が適切に配置されているか。 それぞれの授業は短期大学にふさわしい内容とレベルを有しているか。 それぞれの授業の単位認定と評価は適切に行われているか。 教育課程改善への意欲は十分か。また教育課程改善への組織的な対応はなされているか。
小項目	1.0.2 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること
要素	教育課程には免許・資格等の取得への配慮がなされているか。 教育課程の授業形態（講義、演習、実験・実習等）はバランスがとれているか。 教育課程は必修と選択のバランスが適切であり、また選択科目は学生に選択の自由を保障しているか。 それぞれの授業内容に応じたクラス規模は適当であるか。 卒業要件は適切であり、その要件は学生に理解しやすい表現となっているか。 それぞれの授業について学生は意欲を持って履修できるように工夫しているか。
小項目	1.0.3 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること
要素	シラバスあるいは講義要項等が作成され、事前に学生に配付されているか。また学生は活用しているか。 シラバスあるいは講義要項等は授業の概要を示す十分な内容を有しているか。また学生に理解しやすい表現になっているか。 それぞれの授業には教科書、参考書等が用意され、また参考文献等が示されているか。
小項目	1.0.4 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること
要素	学生による授業評価が定期的に行われ、その評価結果が授業改善のために活用されているか。 短期大学全体の授業改善（FD活動等）への取組みは活発か。また授業改善のための組織等が設置され活発に活動しているか。 それぞれの授業の担当教員は授業改善への意欲を持っているか。 授業担当者間での意思の疎通、協力・調整はなされているか。また兼任教員（非常勤講師）との意思の疎通はなされているか。 授業改善や教員の能力開発のための経費は準備されているか。 授業改善を支援する職員の研修（SD活動等）は、定期的に行われているか。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教育目標にもとづいた教育課程編成の方針の明示。	→教育課程編成の方針の明文化、「要覧」「履修の手引き」への記載、履修指導の説明の時間等の充実	C
2. 実践力を培うために保育現場と連携した授業実施。	→保育現場と連携した授業内容の検討及び実施状況。	C
3. 保育職の専門性向上のため、旧教員・卒業生などの積極的活用。	→旧教職員・卒業生などとの連携状況。	C
4. シラバスの記載内容の充実、不完全シラバスをなくす。	→不完全シラバス数、シラバス記載内容の変更。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

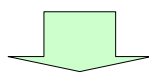
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目1.0.1	本学の教育課程は建学の精神や教育目標である「キリスト教精神にもとづく豊かな人間性、専門性、実践力を兼ね備えた保育者の育成」にもとづき、さらに130年の伝統を引き継ぎ、編成されている。幼い子どもの育ちを支える保育者には、豊かな人間性、子どもに対する正しい発達観、どのような子どもを育みたいのか保育観が求められるため、職業倫理をも含めた教養が土台になっている。しかし、近年の学生の様子の変化は保育を学ぼうとする者にも顕著に現れ、さらなる工夫が必要である。
★ 小項目1.0.2	本学の教育課程は、幼稚園教諭免許及び保育士資格を取得できるように編成され、これらをベースに児童厚生指導員、認定ベビーシッター、社会福祉主事任用資格の資格も取得できるように編成しており、幼稚園・保育士の免許・資格に関しては多くの学生が修得している。しかし、これらの免許・資格を修得するためには、それぞれの所属官庁の指導をうけており、短期大学の修業期間である2年間において選択科目の充実は難しいのが現状である。今年度、保育士養成課程の改定が実施される予定である。
★ 小項目1.0.3	2009年度までは、教育課程やシラバス等教科内容を説明するための冊子が3冊になっていた。(要覧を含めるとのべ4冊になる)2010年度には、これらを1冊に統合し、「履修の手引き・開講科目教科内容」となった。保育士養成課程の所管官庁の指導により、シラバスは15回の授業内容が記載されている。
★ 小項目1.0.4	授業評価アンケートに関しては、春学期秋学期とも全科目を対象に実施している。
★ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目1.0.1	本学が培ってきた保育者養成に対する熱意が、授業や担当教員の話等を通じて浸透しつつある。
小項目1.0.2	在学するほとんどの学生が幼稚園免許・保育士資格を取得し卒業している。またその他の資格についても、積極的に取得する姿がみられる。
★ 小項目1.0.3	各授業科目のシラバスは、履修の手引きと一冊になり、受講生がいつでも参考にすることができるようになった。
小項目1.0.4	授業評価アンケートの回収については、担当教員に提出するのではなく、受講生の手によって回収されている。
その他	



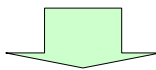
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目1.0.1	専任教員が建学の精神や教育目標について、さらに理解を深めるための機会をもつ。非常勤講師に対しても、説明する機会をもつ。
小項目1.0.2	免許・資格の対象となる幼稚園や児童福祉施設、子育て支援等の実情等について、保育現場と連携し、授業で積極的に取り上げる。
★ 小項目1.0.3	各教科目のシラバスの記載内容についての検討
小項目1.0.4	授業評価アンケートに関して、実施方法など担当教員への説明及び確認をする。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目1.0.1	現在の学生の様子の変化にともない、従来の教授法では難しくなっている。
小項目1.0.2	2010年度に予定されている保育士養成課程の改定に対応した教育課程の編成。
★ 小項目1.0.3	学生の授業選択にシラバスが活用されていない。
小項目1.0.4	講義、演習、実習等授業形態や方法が様々であるのに対し、それに応じた授業評価項目が検討されていない
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目1.0.1	学生の現状の理解と、教授方法等の検討
小項目1.0.2	保育士養成課程の申請に関し、情報の収集と、授業内容、授業計画の検討。
★ 小項目1.0.3	履修指導時や授業開始時に、各教科目のシラバスを読み、学生の理解を促す。
小項目1.0.4	授業評価アンケートの活用方法について検討する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

- シラバス等の改善といった目標・指標について、特に学生目線あるいは利便性に基づいて具体的に実行されている点が評価できます。
- 幼稚園教諭免許や保育士資格の取得を可能とする教育課程については、確かに所轄官庁の指導・制約および2年間という修業期間のことを考え合わせると、そこに学生の選択の自由の保障や多様なニーズに十分こたえ得る科目編成が難しいことはよく理解できます。それにも拘らず学生や社会の要請により合ったカリキュラムの編成や授業内容の充実を実現するためには、授業改善のためのFD活動と学生の多様な要望を汲み上げるシステムが、連携して働くよう検討されることが期待されます。近年かつての学生とはかなり違った様子を見せる学生たちの多様なニーズを知るために、履修・学習・生活指導を中心とした、いわゆるアドバイザー・担任制度とは別に学生と教員が教育内容や方法についてさねフランクに語り合える特別の時間或いは専用の場所の設置が考えられないでしょうか。
- 《効果が上がっている事項》の小項目1.0.2で「幼稚園免許・保育士資格を取得して卒業している。」とありますが、養成校としては当然のことです。
- 履修科目が多いことは全くその通りです。短期大学で卒業必要単位は62単位ですが、保育士資格で68単位、そこに幼稚園教諭免許を取得するためには30単位前後の履修が必要です。その結果選択科目数を多数開設できないことに同意できます。
- シラバスは授業内容と進行に対する学生との「約束事」ですから、学生が読むようにシステムとして取り組む必要があります。（授業開始時にシラバスのこの部分を解説するとか）
- シラバスの中に建学の精神を入れることができる箇所を、担当教員一人ひとりが探す必要があります。幼児教育、社会福祉はキリスト教の精神の具現ですから、多数の箇所にあるはずですが。

【学内委員】

- 具体的に問題点を指摘していることは、評価できます。今後、改善策を具体化して着実に実施していくことが期待されます。
- 種々の厳しい状況の中で、問題点を把握され努力されようとしています。説明も誠実です。
- 自己点検・評価は、社会にわかり易く説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見た程度である程度のことかわかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。
- 2007年度の認証評価において、「シラバスに学生の科目選択に必要な情報が必ずしもすべて網羅されていない場合がある」と指摘されています。現状はどうでしょうか。
- 現状説明1.0.4における授業評価アンケートですが、検証、公表、改善、フィードバックについてはどうなっていますか。現状説明が求められます。
- 伸ばさせるための事項、改善方法の記述は、「検討」するなど曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。
- 効果が上がっている事項の小項目1.0.2において「ほとんどの学生」「取得する姿」とありますが、何人か、何割か、など定量的な根拠を示す必要があります。
- 効果が上がっている事項の小項目1.0.3の内容は、現状説明ではないでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目1.0.4現状説明を次の文章と差し替える。「授業評価アンケートに関しては、春学期秋学期とも全科目を対象に実施している。調査用紙を各科目ごとに分け、実施方法を添付し、各授業担当教員に渡している。授業評価アンケートは、開講時期の後半に期日を定め実施している。その結果は各科目担当教員に伝えている。また、学生用の掲示板で結果を知らせている。」

★ 効果が上がっている事項1.0.2を次の文章と差し替える。「卒業時には、卒業生156名中、幼稚園教諭二種免許状152名、保育士147名、児童厚生二級指導員54名、認定ベビーシッター129名が免許・資格を取得しており、意欲的に学修をしていることがわかる。」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	2 教育の実施体制
中項目	
小項目	2.0.1 教員組織等が整備されていること
要素	設置基準の教員数の規定（教授数を含む）を充足しているか。 教員は学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有しているか。 教員の採用、昇任はその選考基準等が整備され適切に行われているか。 教員の年齢構成はバランスが取れているか。 教員は、（a）授業担当、（b）研究活動、（c）学生指導、（d）その他教育研究上の業務に意欲的か。 助手、補助職員等が確保され、教育活動等に機能しているか。 教育実施にあたる責任体制は確保されているか。
小項目	2.0.2 教育環境が整備・活用されていること
要素	保有する校地の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校地は教育環境として適切に整備されているか。 保有する校舎の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校舎は授業や学生生活のために常に整備され快適な環境となっているか。 それぞれの授業を行うにふさわしい講義室、演習室、実験・実習室を十分に用意しているか。 それぞれの授業を行うにふさわしい情報機器を設置するパソコン教室、マルチメディア教室、L L教室は整備されているか。また学生自習室等は整備されているか。 授業用の機器・備品についてその整備システムが確立しているか。また、それぞれの授業を行うための機器・備品は十分に備わっているか。 保有する校地と校舎は学生や教職員の安全性に配慮しているか。また障害者に対応したものとなっているか。 適切な広さの運動場、体育館を有しているか。
小項目	2.0.3 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること
要素	図書館（以下、学習資源センター等を含む）の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等は、在籍学生数に比し適当か。 図書館の広さは充分であり、その環境は適切に整備されているか。また蔵書数の増加等、将来に備えたものとなっているか。 年間の図書（以下、学術雑誌、AV資料等を含む）購入予算は充分か。また購入図書選定システムや廃棄システムは確立しているか。 図書館には学生が利用できる参考図書、関連図書は十分に備えられているか。 司書数、司書の能力、図書検索システムなどを含む、図書館のサービス体制は充分か。 学生の図書館利用を活発にするための努力は行っているか。 学内外への情報発信、他の図書館との相互利用活動など、図書館活動は活発か。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教育実績、研究業績、社会的活動等短期大学教員として必要な資質の向上	→研究活動、社会的活動に関する報告書提出の徹底および情報公開の実施	C
2. FD検討会の活性化、学外研修などの活用により、現状以上に授業を改善する	→FD検討会の内容、方法の再検討、全国保育士養成協議会主催のセミナーおよび研究大会への積極的な参加、研究発表など	C
3. 学生の図書館活用能力を向上させ、短期大学図書館の入館者数、貸出冊数を1.5倍にする	→オリエンテーションの実施状況およびアンケート調査結果、入館者数、貸出冊数、ホームページ、OPAC、電子ジャーナルへのアクセス数等	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

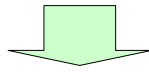
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目2.0.1	大学教員として必要な資格および資質に関しては、幼稚園教諭免許の養成課程の課程認定を委員会の教員審査を受けているものが多くいる。また、短期大学の過密なスケジュールのなかで授業を工夫し、年々、多くの時間を要する実習や就職指導等、学生指導を熱心に行っている。また教育研究上の業務にも意欲的に取り組んでいる。
☆ 小項目2.0.2	校地は設置基準を満たしているが、講義室、実習室等については関西学院大学教育学部の完成年度を迎えたときには、講義室等を増やさないと授業に支障をきたす可能性が大きい。
☆ 小項目2.0.3	学生は、日常的にある程度図書館を利用しているものの、継続的な学習の場として積極的に図書館を活用しているとは言いえない状況である。図書館をほとんど利用しない学生もおり、課題が残る。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目2.0.1	教員免許の教員審査や保育士資格の課程認定を受けた教員が多くいる。
小項目2.0.2	校地、施設共に関西学院大学教育学部と共用のために他短大より充実した設備となっている。
★ 小項目2.0.3	新入生対象のオリエンテーションの一環として図書館のサービス内容などを紹介し、さらに、教員と連携し図書館の館内ツアーを実施した。これにより、全新生が図書館の施設・設備・資料などについて一定の知識を得ることができた。また、ゼミ単位で図書検索システムのガイダンスも行い(任意)、PCを使って実際に図書を検索して入手する個別トレーニングを行うことにより、必要な図書を自主的に探す力が身に付いた。2010年4月からホームページを新設し、図書館利用に関する情報やデータベース類を掲載し、間接的な支援も行っている。
その他	



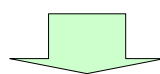
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目2.0.1	教員免許の教員審査や保育士資格の課程認定にそなえて、教員の業績等を常に最新のものにする。
小項目2.0.2	各施設の効率的な運用についての検討を進める。
★ 小項目2.0.3	アンケートによると、図書検索システムのガイダンスを行った後は、必要な本の探し方を理解できたという回答が目立つ。次年度は、図書検索システムのガイダンスを全新生に対して実施することを目標とする。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目2.0.1	教員養成課程や保育士養成課程の改定に際し、その改定の意図等について短期大学全体で検討する時間が少ない。
小項目2.0.2	関西学院大学教育学部の完成年度には講義室が不足する。
★ 小項目2.0.3	図書館を日常的に使ってもらうため、潜在的なユーザーの発掘を行う必要がある。入館者数を一つの指標とし、年間を通じて利用を促進する方法を検討する。また、貸出数をもう一つの指標とし、さらに数字が伸びるよう検討する。なお、2009年度の貸出点数は、16,751冊(2008年度比約18%増加)である。(ただし2008年度は、合併に伴う大規模な改修工事のため、夏季に2ヶ月以上に渡る閉館期間があり、貸出可能冊数も大幅に増やす対応を行った。)
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目2.0.1	教員養成課程や保育士養成課程の改定に際しそれを理解する場や時代に適切な教育内容であるかを確認する機会を設ける。
小項目2.0.2	
★ 小項目2.0.3	春学期のうちに、新生が図書館に親しみを持ってもらえるよう企画・展示を行う。館内での上映会やお勧め図書の展示等により、新生へのイメージアップや利用促進を図る。また、2010年度は図書システムを更新予定であり、より使いやすいOPAC(図書検索システム)を導入する。これにより、検索やそれに伴う資料の利用が容易になる。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
--------------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

○幼稚園教諭免許の養成課程認定で教員審査を正式に受けている教員が多くいることは評価できます。関西学院大学教育学部の完成年度を迎えたときに講義室・実習室等の不足が生じることについては、法人によりすでに対策が立てられていると思いますが、実際に現在短期大学側に不安があるようなので、その解消策ができるかぎり早く明示されることが望まれます。

○学生の図書館の活用実績を向上させるための様々な努力がなされていることは大変評価できます。特に、入館者数・貸出冊数を1.5倍にするといった数値目標をあげている点など具体的に改善が進んでいることがよく認められます。2010年度に予定されている図書システムの更新やOPAC導入に際して関西学院大学図書館との一元化や両キャンパス間の利便化が進められると学生・教員にとって大きなメリットとなり、聖和短期大学の魅力の一つになると思われまます。

○研究活動は、教員の専門分野の研究は当然ですが、担当授業内容に関する研究も必要です。興味のある専門分野、授業で必要な内容分野の研究量を表示する必要があります。

【学内委員】

○具体的に問題点を指摘していることは、評価されます。今後、改善策を具体化して着実に実施していくことが期待されます。

○教員の資質が高く、多忙な中、種々の問題に取り組まれようとしています。

○自己点検・評価は、社会にわかり易く説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見ただけである程度わかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思ひます。

○2007年度の認証評価において、「兼担の多さ」について指摘されています。現状はどうでしょうか。

○小項目2.0.1の現状説明において「多くいる」との記述がありますが、人数や割合を明記してください。出来るだけ実証できる、根拠のある説明が必要です。なお、説明の1行目後半部分の表現において「を」「を」となっており意味が取りにくくなっています。

○小項目2.0.2において、講義室の不足が記述されていますが、どれ程不足するのか現状とともに示してください。

○小項目2.0.3において利用率のことを記述されていますが、まず、基本的な図書館の説明（座席数、学生に対する座席数割合など）が求められます。

○効果が上がっている事項の小項目2.0.1において「多くいる」との記述がありますが、人数や割合を明記してください。また、この記述は現状説明ではないでしょうか。

○伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「検討をすすめる」「機会を設ける」などは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

○改善方策の小項目2.0.2の記述がないのは何故でしょうか。大きな問題であり改善が必要かと思われまます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目2.0.1現状説明を次の文章と差し替える。「大学教員として必要な資格および資質に関しては、幼稚園教諭免許の課程認定委員会の教員審査を受けているものが全体の教員数の66%となっている（この数には保育士の課程認定は含まない）。また、短期大学の過密なスケジュールのなかで授業を工夫し、年々、多くの時間を要する実習や就職指導等、学生指導を熱心に行っている。また教育研究上の業務にも意欲的に取り組んでいる。」

★

小項目2.0.3現状説明に次の文章を追加する。「短大図書館は315座席を有している。2009年度はこのキャンパスに在籍する学生1254名（短大生317名、学部生919名、大学院生19名）のうち25.1%の座席が確保されている。所蔵図書159877冊、収容能力約25万冊、総面積2923平米、利用者用パソコン44台」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	3 教育目標の達成度と教育の効果
中項目	
小項目	3.0.1 教育目標の達成への努力がみられること
要素	それぞれの授業の単位認定の方法(試験、レポートや制作物の提出等)は適切か。また単位の取得状況は妥当な範囲であり、担当教員による学習評価は適切に行われているか。 担当教員は、授業終了後の学生の満足度に配慮しているか。 退学、休学、留年等の学生の全体の学生に占める状況は妥当な範囲か。またそれらの学生に対するケアは充分か。 資格取得の取組みと実績は充分であるか。 編入学希望に対応しているか。
小項目	3.0.2 学生の卒業後評価への取組みの努力がみられること
要素	専門就職(学習した分野に関連する就職)の割合は充分か。 卒業生の就職先からの評価について意見を聴取しているか。 教育の実績や効果を確認するために卒業生との接触、同窓会との連携等が行われているか。 編入先からの評価について意見を聴取しているか。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学生による授業評価アンケートの内容を再検討し、授業評価方法の改善を行う	→全授業科目の授業評価アンケートの実施、内容の検討状況	C
2. 免許・資格を取得するための個別的な指導と支援を強化し、実績を維持する	→希望者の免許・資格取得の割合、ガイダンスの実施(回数及び参加者数)	C
3. 卒業生に対する就職先からの評価方法の検討および実施	→評価方法の検討と進捗状況	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

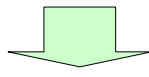
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目3.0.1	免許・資格を取得するという目的意識を持って勉学しているため、本学の学生の授業への出席率は非常に高い。ほとんどの学生が幼稚園教諭・保育士の免許・資格を取得し、さらに児童厚生員、認定ベビーシッター、社会福祉主事任用資格も取得している。退学休学も数名である。文章を書くレポートを作成すること等を苦手とする学生も増えてきている。
☆ 小項目3.0.2	キャリアセンター分室の職員が前年度卒業生の就職先を訪問し、近況を聴取している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目3.0.1	将来保育に関わる職業につきたいとの目的意識から、授業の出席、課題の提出など意欲的である。
★小項目3.0.2	キャリアセンター分室の職員が前年度卒業生の就職先を訪問し、近況を聴取しているので、就職先からの大まかな評価は把握している。
その他	



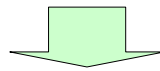
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目3.0.1	授業担当教員の成績評価の状況について情報や意見を交換する機会をもつ。
★小項目3.0.2	卒業生に関する評価や情報の内容について、聴取する項目等を検討する。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目3.0.1	2年間の限られた中で、免許資格を修得するための単位履修状況が把握しにくい。
★小項目3.0.2	就職先から聴取する卒業生に関する評価や情報の内容が統一されていない。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目3.0.1	学生の履修状況、実習先などを把握する履修カルテを作成する。
★小項目3.0.2	卒業生に関する評価や情報の内容について、聴取する項目等を検討する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- ほとんどの学生が幼稚園教諭・保育士の免許・資格の取得という入学時の目的を完遂して、さらに他の資格等をも取得し、専門職として社会に巣立っていることは大変評価できます。
- 現在の教育活動全般が「教育理念」や「教育目標」に、また社会のニーズに合致しているか、さらに卒業生が社会でどのような評価を得ているかを常に調査・分析し、検証していく総合的な仕組み作りが望まれます。
- 今後、特に免許・資格取得を目指す学生の養成にとって各個人の履修カルテ作りが重要な役割を果たすと見られている中、その実施に向けて順調に方策がとられていることが評価できます。履修カルテ作りの検討が深められ、聖和短期大学独自の優れたモデルが作られることが期待されます。
- 授業終了後の学生の満足度は、授業アンケート、免許、資格所得の割合だけで測れるのでしょうか。毎回の授業参加度（積極的に発言・居眠り・私語）等も考慮する方法を検討して欲しいと思います。

【学内委員】

- 問題点を把握されています。改善に期待します。
- 具体的に問題点を指摘していることは、評価されます。今後、改善策を具体化して着実に実施していくことが期待されます。
- 自己点検・評価は、社会にわかり易く説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見ただけである程度のことかわかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。
- 小項目3.0.1の現状説明において出席率が高いとされていますが、数字を示してください。資格取得者も数や率を示してください。退学者、休学者も同様です。また、苦手な学生が増えてどう努力したのか記述が欲しいところです。
- 2007年度の認証評価において、「卒業生に対する就職先からの評価」について指摘されています。検討状況はどうでしょうか。
- 小項目3.0.2の現状説明において、専門就職の割合を示してください。
- 「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行」における努力義務である「教育課程を通じて修得が期待される知識・能力の体系」についても、早急な対応が期待されます。
- 効果が上がっている事項は、現状説明したことの実施効果と考えられます。このような記述をお願いします。小項目3.0.1の記述は現状説明です。小項目3.0.2についても現状説明です。
- 伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「検討する」「機会をもつ」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。
- パンフレットに編入について広報しています。要素にもその内容がありますから記述があってもよいのではないのでしょうか。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目3.0.1現状説明を次の文章と差し替える。「免許・資格を取得するという目的意識を持って勉学しているため、本学の学生の授業回数15回の出席率は、97.65%と非常に高い。ほとんどの学生が幼稚園教諭・保育士の免許・資格を取得し、さらに児童厚生員、認定ベビーシッター、社会福祉主事任用資格も取得している。(卒業生156名中、幼稚園教諭二種免許状152名、保育士147名、児童厚生二級指導員54名、認定ベビーシッター129名が取得)全学生のうち退学者は3名、休学者は2名である。文章を書くレポートを作成すること等を苦手とする学生も増えてきている。」

小項目3.0.2現状説明に次の文章を追加する。「2009年度の進路決定状況は次のとおりである。幼稚園 42%、保育所 45%、福祉施設 1%、児童館 1%、企業 3%、進学(編入を含む) 4%、その他 5%」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	4 学生支援
中項目	
小項目	4.0.1 入学に関する支援が行われていること
要素	短期大学案内には建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、望ましい学生像等が明示されているか。 募集要項には入学者選抜の方針、多様な選抜方法（推薦、一般、AO選抜等）が分かりやすく記載されているか。 広報もしくは入試事務の体制が整備され、受験生の問い合わせ等に対して適切に対応できているか。 多様な選抜が公正かつ正確に実施されているか。 入学手続き者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供できているか。 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは適切に行われているか。
小項目	4.0.2 学習支援が組織的に行われていること
要素	特に学習の動機づけに焦点をあわせた学習や科目選択のためのガイダンス等が適切に行われているか。 学生便覧等、学習支援のための印刷物が発行されているか。またそれらの印刷物は学生に理解しやすいものとなっているか。 基礎学力が不足する学生に対し、補習授業等の学習支援に対する組織的な取組みに努めているか。 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制が整備されているか。 進捗の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っているか。
小項目	4.0.3 学生生活支援体制が整備されていること
要素	生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）が整備されているか。 クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が活発に行われ支援体制も確立しているか。 休息空間、保健室、学生相談室、食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティへの配慮は充分か。 宿舎が必要な学生に適切な支援（学生寮、宿舎の斡旋等）は行われているか。また通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）は図られているか。 奨学金等、学生への経済的支援のための制度は用意されているか。 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制は整っているか。 学生個々の記録が作成されているか。またその記録は適切に保管されているか。 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めているか。
小項目	4.0.4 進路支援が行われていること
要素	就職支援のための教職員の組織が整備され適切に活動しているか。 就職支援室等が完備され、学生に必要な情報が提供できているか。 就職のための資格取得、就職試験対策などの支援はなされているか。 就職内定率（3/3 1 現在）は充分な水準か。 その他、進学、留学に対する支援は充分になされているか。
小項目	4.0.5 多様な学生に対する特別な支援が行われていること
要素	留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制は整っているか。 社会人学生の学習を支援する体制は整っているか。 障害者の受入れが可能な施設を整備する等、障害者への支援体制は整っているか。 長期履修生を受入れる体制は整っているか。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 受験生が理解しやすく魅力を感じる大学案内パンフレット、ホームページ等、広報の検討	→大学案内パンフレット、ホームページの作成に在学生や卒業生の意見、アイデアを取り入れる。	C
2. 入学までの情報提供および入学前教育の充実	→入学予定者対象パンフレットの再検討、ピアノの実技能向上のためのプログラムの検討	D
3. アンケート調査などによる学生生活の現状把握	→在学生を対象として学生生活全般に対するアンケート調査の実施および課題の分析の進捗状況	D
4. 進路選択時の情報提供を徹底し、アドバイザー制度の活用を推進する	→「進路希望調査カード」の再検討の進捗状況、アドバイザーへの相談および指導内容の分析	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

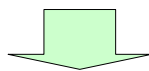
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目4.0.1	入学に関する支援を実施するために、受験生が理解しやすく魅力を感じる大学案内パンフレット、ホームページ等、広報について検討している。ホームページについては3月に大幅にリニューアルした。
★ 小項目4.0.2	学生への便覧が2009年度はその内容が4冊に渡って使われてきた。2010年度配付用には、これらの内容をより学生が利用しやすいように見直し、「要覧」と「履修の手引き・開講科目教科内容」の2冊にまとめ、それに基づきガイダンスを実施している。学習支援を組織的に行うために、アドバイザー体制をとり、学年毎の担当者会を定期的実施し、情報の共有と連携を図っている。
★ 小項目4.0.3	学生生活支援については、学生主任の下に学生担当教員を2名配置し、検討すべき案件については定期的開催される学長室会で協議している。学生の健康管理、奨学金、学生寮、食堂等キャンパスアメニティについては、キャンパス事務室と連携し、検討すべき案件についてはキャンパス連絡協議会で協議している。
★ 小項目4.0.4	進路支援については、アドバイザー体制により個別的支援を行い、定期的開催している会議にキャリアセンター分室の職員が出席し情報を共有するなど連携をとっている。
★ 小項目4.0.5	留学生、社会人等が在学していないため、多様な学生に対する特別な支援は行われていない。長期履修生に対しては、アドバイザー等が連絡をとるなど、受け入れる体制は整っている。
★ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	大学案内パンフレットについて再検討し、またホームページを大幅にリニューアルしたことにより、従来より受験生が興味をもちやすい広報内容となった。
小項目4.0.2	2010年度配付用には、これらの内容をより学生が利用しやすいように見直し、「要覧」と「履修の手引き・開講科目教科内容」の2冊にまとめることによって、より活用しやすいものとなった。アドバイザー体制をとり学生を支援しているので、ある程度、学生の悩みや相談に応じられている。
★ 小項目4.0.3	キャンパス事務室との連携により、学生寮、食堂売店の整備等学生のキャンパスアメニティへの配慮など、学生生活支援体制がおおむね整備されている。
小項目4.0.4	アドバイザー制度とキャリアセンター分室との連携により、就職内定率は100%である。
小項目4.0.5	
その他	

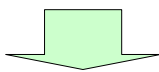


【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	大学案内パンフレット、ホームページ等、広報の方法について検討する。リニューアルしたホームページの有効的活用について検討する。
小項目4.0.2	学生配付の便覧の内容の精査とより利用しやすいように意見を聴取する。
小項目4.0.3	アンケート等を実施して意見を聴取し、キャンパス連絡協議会等で提言する。
★ 小項目4.0.4	アドバイザー制度を推進して、キャリアセンター分室との連携をさらに強化する。
小項目4.0.5	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		
小項目4.0.1	大学案内パンフレット、ホームページなどについて在 student や卒業生等からの意見の聴取が十分にできていない。入学前教育について検討できていない。	
小項目4.0.2	学生気質の変化等に対応した多様な学習支援について、個別的な対応はできているが短期大学全体での検討ができていない。	
小項目4.0.3	学生生活に関する学生の意見や要望について、組織的に聴取していない。	
★	小項目4.0.4	進路指導にかかわる教科目が設定されていない。
	小項目4.0.5	多様な学生に対する特別な支援体制が十分にできていない。
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策		
小項目4.0.1	大学案内パンフレット、ホームページの作成に在 student や卒業生の意見、アイデアを取り入れる。入学予定者対象パンフレットの再検討、ピアノの実技能力向上のためのプログラム等、入学前教育について検討をする。	
小項目4.0.2	多様な対応ができるように、学生支援体制を充実させる。	
小項目4.0.3	在 student を対象として学生生活全般に対するアンケート調査の実施および課題の分析し検討をする。	
★	小項目4.0.4	教科目および進路指導内容（「進路希望調査カード」等）を検討する。
	小項目4.0.5	留学生や障害者への特別な支援体制を検討する。
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★	その他 (自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 大学案内や学生便覧等の改善が幅広い方面から検討され進んでいることが大変評価できます。
- 就職内定率100パーセントが優れた成果であることは言うまでもなく、それがアドバイザー制度とキャリアセンターとの有機的な連携によって達成されていることも評価できます。
- アドバイザーではもともと処理し得ない専門的なメンタルケアのための、あるいは障がい者支援のための体制はどのようになっていますか。この点につき記述されていませんが、重要な問題なので十分な検討と早めの対応が望まれます。
- 小項目4.0.1「大学案内パンフレット、ホームページの作成に在 student や卒業生の意見、アイデアを取り入れる。」とありますが、主役である、高校生の意見も取り入れるようにしたいものです。

【学内委員】

- 学生支援の各項目について、着実に改善策を実施していることは評価できます。
- 学生支援について努力をされています。継続した自己点検・評価に期待します。
- 自己点検・評価は、社会にわかり易く説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見ただけである程度のことのわかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。
- 小項目4.0.1は、小項目の要素に従って現状説明してください。そうでないと現状がどうであるのか全く分かりません。
- 2007年度の認証評価において、「個々のクラブ活動などを全学的に総括する学生組織が作られていないので、その組織化の検討」について指摘されています。現状はどうでしょうか。
- 伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「検討する」「さらに強化する」「充実させる」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。
- 小項目4.0.5の現状説明ですが、障がい者の受入についてはどうでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	小項目4.0.3現状説明に次の文章を追加する。「メンタル面のケアとして学生相談室があり1名の職員がいる。健康面でのケアとして、保健館分室があり、1名の専任と1名のアルバイト計2名の職員がいる。」
	小項目4.0.5現状説明に次の文章を追加する。「キャンパス全体でバリアフリー化を図った。」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	5 研究
中項目	
小項目	5.0.1 教員の研究活動が展開されていること
要素	教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は成果をあげているか。 教員各個人の研究活動の状況が公開されているか。 科学研究費補助金等の申請・採択、研究費の外部からの調達実績があがっているか。 教員あるいは教員グループの担当授業科目に関する研究や教育実践及びその成果についての報告が奨励されているか。
小項目	5.0.2 研究活動の活性化のための条件整備が行われていること
要素	教員の研究に係る経費の支出は充分か。また研究経費についての規程が整備されているか。 教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）は確保されているか。 教員の研究に係る機器、備品、図書等は充分か。 教員が研究を行うにふさわしい教員室、研究室または研修室が整備されているか。 教員には研究日（研修日）等、教員が研究を行うに十分な時間の確保に配慮がされているか。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学内研究会の設立および研究会活動の推進	→研究会の設置状況、研究会規約等の制定状況、研究会実施状況	C
2. 研究紀要の発行（年一回発行）	→研究紀要の発行状況、発行回数	C
3. 科研費等による研究の奨励	→科研費等による研究への応募および採択状況	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

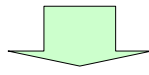
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目5.0.1	教員の研究活動は概ね良好であるが、個人的な偏りが見られる。教員の担当授業に関する研究や教育実践およびその成果については、所属学会や全国保育士養成協議会等で積極的に発表されている。2009年度は科学研究費補助金等の申請については主任研究者としての申請はなかったが、分担研究者としては研究が採択され実施した。その他、私立大学等経常費補助金（特別補助）による研究を行った。
☆ 小項目5.0.2	2010年2月に短期大学教員を中心とした「聖和保育教育研究会」を設立し、3月に研究紀要「聖和論集」創刊号を発刊した。今後、研究会の定期的な開催と年一回の論集発行を予定している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目5.0.1	所属学会や全国保育士養成協議会で積極的に発表されている。
★小項目5.0.2	これまで学内で互いの研究を発表し合う場がなかったため、研究会の設立により各教員の研究への意欲が促進され、論集投稿への積極的な姿勢が見られるようになった。
その他	



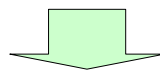
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目5.0.1	年度始めに研究計画書を作成してもらう。
★小項目5.0.2	研究発表会の開催（2月開催予定）および論集投稿への奨励
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目5.0.1	科研費等、外部からの研究費への応募が少ない。
★小項目5.0.2	研究費に関する法人の利用についてあまり理解されていない。論集投稿数が少ない。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目5.0.1	外部からの研究費調達に関する情報収集および応募支援の充実。
★小項目5.0.2	再度研究費の規程等の説明を行う。論集の投稿がしやすいように、投稿締め切り日等スケジュールを早めに伝える。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価>（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

- 2010年2月の「聖和保育教育研究会」の設立と3月の「聖和論集」の創刊は、教員の研究活動を短期大学全体で奨励・支援する体制が明白に始まったことを示すもので大変評価できます。
- 今後、科学研究費補助につき主任研究者としての申請も行われるようになり、いっそう研究活動が活発化することが望まれます。
- すぐに来ることではありませんが、研究並びに教育に対する教員の寄与を評価するためにどのような方法があるかについても検討し始めることが期待されます。
- 科研費等の外部研究費調達に関する情報収集や応募支援を担当する職員側の体制作りがスピードをもって行われることが大切です。これについては先ずある程度権限を持った専門の職員を育てることが大切だと思います。
- 「聖和論集」を創刊したことは評価できます。
- 年度初めに「研究計画書」を提出することは良いことです。その分類項目として、授業科目関係、他の分野と研究分野を入れることをお考えください。
- 研究を点数化して、毎年の必要点数、昇格の必要点数、等を明示することをお考えください。
- 紀要、論集等の巻末には、著者一覧表を号数別、個人別に毎号掲載し、業績を明確化すればどうでしょう。

【学内委員】

- 具体的に問題点を指摘していることは、評価されます。教員の業務の現実を踏まえ、着実に改善をすすめることが期待されます。
- 積極的な研究活動が見られます。教育などに多くの時間が必要な短期大学において、積極的な研究活動に期待します。
- 自己点検・評価は、社会にわかりやすく説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見ただけである程度のことわかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。
- 小項目5.0.1の現状説明において「研究活動は概ね良好である」とされています。何をもちってそう記述されるのか、論文発表数などの根拠資料、数字をお示しください。科研費や外部研究費の採択状況についても同様です。分担研究の概要についてもお示しください。効果が上がっている事項の記述についても同様です。
- 改善すべき事項の小項目5.0.2における記述「法人の利用」の意味がつかめません。ご説明ください。
- 改善方法の記述において「充実」だけでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目5.0.1現状説明を文章を次の文章と差し替える。「教員の研究活動については、『聖和論集』に7名の教員が投稿しており、教員の担当授業に関する研究や教育実践およびその成果については、日本保育学会や全国保育士養成協議会研究大会等で積極的に発表されている。2009年度は科学研究費補助金等の申請については主任研究者としての申請はなかったが、分担研究者としては厚生労働科学研究補助金政策科学総合研究事業（政策科学推進事業）、平成21年度児童関連サービス調査研究等事業（財団法人こども未来財団）などの研究が採択され実施した。その他、私立大学等経常費補助金（特別補助）による研究を行った。」

小項目5.0.2現状説明に次の文章を追加する。「さらに、『キリスト教教育保育研究センター』においても2009年度は4回の研究会を実施した。」

改善すべき事項5.0.2を次の文章と差し替える。「個人研究費等の取り扱いについて周知できていない。論集投稿数が少ない。」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	6 社会的活動
中項目	
小項目	6.0.1 社会的活動への取組みが推進されていること
要素	社会的活動についての位置づけが明確にされているか。 社会人の受け入れに対して意欲的か。 地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施しているか。 地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体等と効果的な交流活動を行っているか。
小項目	6.0.2 学生の社会的活動を促進していること
要素	ボランティア活動等を通じて地域社会に貢献しているか。 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価しているか。
小項目	6.0.3 国際交流・協力への取組みの努力がみられること
要素	留学生の受け入れ及び留学生の派遣（長期・短期）に対して意欲的か。 海外教育機関等との密接な双方向的交流を継続しているか。 教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等は活発か。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 卒業生および保育者を対象としたSEIWAサマーセミナーの開催	→サマーセミナーの実施状況	C
2. 地域の子育て家庭を対象としたオープンセミナー聖和キャンパス講座（幼児教育大学）の開催（教育学部、聖和幼稚園との共催）	→オープンセミナー実施状況	C
3. 「関西学院子どもセンター」における発達支援事業、子ども子育て支援事業、おもちゃとえほんのへや事業の充実	→「関西学院子どもセンター」事業の活動状況、学生ボランティアの活動状況	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

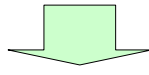
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.0.1	卒業後の成長を支援するプログラムとして、また社会的活動の一環として卒業生、近隣の幼稚園、保育所、施設の保育者を対象に、SEIWAサマーセミナーを2000年より毎年開催している。今年度は170名が参加した。また地域の子育て家庭を対象とした公開講座「幼児教育大学」を教育学部、聖和幼稚園との共催で開催した。
☆ 小項目6.0.2	クラブ、同好会（人形劇、吹奏楽部、手話部等）が地域の幼稚園、保育所、小学校等の行事に参加し、協力、貢献している。神戸市民福祉振興協会主催の障害児ファミリーデイキャンプ等に学生がボランティアとして協力している。
☆ 小項目6.0.3	留学生の受け入れはしていない。合併による組織変更のため、従来実施してきた海外教育機関との交流が終了した。教員養成、保育士養成課程科目を担当する教員は留学することが難しいのが現状である。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.0.1	セミナーには、例年、多くの参加希望者があり、保育者の研修の場として一定の役割を果たしていると思われる。また公開講座は、本学が地域の公民館等との共催で昭和48年以来実施してきた地域に定着した社会的活動のひとつであり、例年、多くの参加者がある。
★小項目6.0.2	ボランティア募集の案内を掲示することによって、多くの学生がボランティア活動に参加している
小項目6.0.3	
その他	



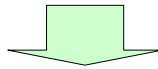
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.0.1	セミナー、公開講座についてさらに検討する。
★小項目6.0.2	ボランティア活動の意義についてのしおりの内容を検討する
小項目6.0.3	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.0.1	幼稚園、保育所における研修が強化、義務化されることに合わせ、現場のニーズに沿ったより有効な研修会のあり方、内容を検討する必要がある。
★小項目6.0.2	ボランティア活動実施のための支援体制が整っていない。
小項目6.0.3	国際会議等に出席する機会が少ない。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.0.1	単発の講演会形式だけでなく、継続的な学びの場を要望する声が多いので検討する必要がある。また公開講座についても、託児等について再検討する必要がある。
★小項目6.0.2	ボランティア活動実施のための支援体制の整備。
小項目6.0.3	国際会議等への積極的な参加を奨励する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

○すでに大きな実績を残している、卒業生および近隣の保育者を対象にした「SEIWAセミナー」や地域の子育て家庭を対象とした「オープンセミナーキャンパス講座」の開催が好評のうちに継続していることは大変評価できます。子育て或いは発達支援事業といった領域で聖和短期大学と関西学院大学とのコラボレーションが実施に移されると短期大学としての社会的活動は更に格段に高い評価を受けるものと思われます。そのために策定された目標・指標のスピードアップが期待されます。

○免許・資格を取得させて卒業生を送り出す高等教育機関の社会的責任がますます問われる時代になっており、その意味で自校の卒業生のためのみの、卒業後のスキルアップや研究活動を支援する面倒見のいいシステムの構築が期待されます。

○学生のボランティア活動を通じた地域貢献が積極的に行われていることも評価できます。ただし、それに対して短期大学側が具体的にどのような支援をしているのかを明らかにすることが望まれます。

○「小項目6.0.1. SEIWAサマーセミナー」や「幼児教育大学」を開催していることは評価できます。

○「小項目6.0.3 海外教育機関との交流が終了した。」ことに変わる新たな交流先、たとえば、関西学院の交流先で、教員養成、保育士養成担当教員の留学先を確保する必要があります。

【学内委員】

○具体的かつ適切に評価されています。多くの社会的ニーズに対応しており、社会貢献の役割を果たしていることは評価できます。

○意欲的な社会的活動が見られます。今後の継続した活動に期待します。

○自己点検・評価は、社会にわかり易く説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見ただけである程度のことのわかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。

○小項目6.0.1における現状説明において、SEIWAサマーセミナーとは何をするのでしょうか。保育者の研修の場だけでは学外者にはわかりません。また、公開講座の経年の参加者数について明示をお願いします。

○ボランティア活動の実態を把握することは困難ですが、できるだけ把握されることを期待します。参加回数などの説明に期待します。

○小項目6.0.3の現状説明、教員の国際交流について説明をお願いします。また、記述で「合併による組織変更のため」とありますが、それによって交流が中止された理由がよくわかりません。説明をお願いします。

○効果が上がっている事項の小項目6.0.1は経年の数字があると、より効果がわかると思えます。

○伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「検討する」「奨励する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6.0.1現状説明に次の文章を追加する。2009年度は「子どもたちと絵本を結ぶために-未来に生きる子どもたちに・生きる力になる絵本を-」（正置友子氏）のテーマで開催した。

★小項目6.0.2現状説明を次の文章と差し替える。「クラブ、同好会（人形劇、吹奏楽部、手話部等）が地域の幼稚園、保育所、小学校等の行事に参加し、協力、貢献している。また、ボランティアの募集の案内を掲示することにより、「神戸市民福祉振興教会主催の障害児ファミリーデイキャンプ」「日本医療保育学会のボランティア」「全国心臓病の子どもを守る会兵庫県支部主催のサマーキャンプ」「関西学院聖和幼稚園での病弱児保育」など、多くの学生が自主的にボランティア活動に参加している。」

小項目6.0.3現状説明を次の文章と差し替える。「留学生の受け入れ及び留学生の派遣に対しての申し出がなかった。教職員の留学、海外派遣などはなかった。教員養成、保育士養成科目を担当する教員は留学することが難しいのが現状である。」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	7 管理運営
中項目	
小項目	7.0.1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立していること
要素	学校法人の運営全般に理事長のリーダーシップが適切に発揮されているか。 理事会は寄附行為の規定に基づいて開催され、学校法人の意思決定機関として適切に運営されているか。 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っているか。 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催され、理事会の諮問機関として適切に運営されているか。 理事の構成に著しい偏りがいないか。
小項目	7.0.2 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること
要素	短期大学の運営全般に学長のリーダーシップが適切に発揮されているか。 教授会は学則等の規定に基づいて開催され、短期大学の教育研究上の審議（諮問）機関として適切に運営されているか。 学長もしくは教授会のもとに教育上の委員会等が設置され、規程に基づいて適切に運営されているか。
小項目	7.0.3 事務組織が整備されていること
要素	短期大学の事務部門の規模は適当か。また事務職員の任用は適切に行われているか。 短期大学の事務部門は事務諸規程等を整備し、それらの規程に基づいて適切に業務を行っているか。 事務処理のための事務室、情報機器、施設・備品等は整備されているか。 決裁規程に従って決裁処理が適正に行われているか。また公印や重要書類・データの管理、防災対策、情報システムのセキュリティ対策は適切か。 事務職員及びその組織は学生から支持され信頼されているか。 事務部門にSD活動等を行う組織を設け、日常的に業務の見直しや事務処理の改善に努力しているか。具体的には事務職員の能力開発、事務能力の向上のため内部研修、外部への研修が活発に行われているか。
小項目	7.0.4 人事管理が適切に行われていること
要素	学校法人は教職員の就業に関する規程（就業規則、給与規程等）を整備し、それらを教職員に周知するとともにそれらの規程に基づいて適正に処理しているか。 学校法人（理事長、理事会）と教職員は、互いの立場を尊重しつつ協力する体制が整っているか。 教員と事務職員が互いの立場を尊重しつつ緊密に連携する雰囲気醸成されているか。 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等は配慮されているか。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学長、学生主任、教務主任の各業務内容の整理および専決事項の策定。	→学長、学生主任、教務主任の各業務内容の整理、専決事項の検討及び策定状況	C
2. 短期大学事務室体制への移行に伴う業務の整理、事務体制の再整備。	→業務整理、体制の再整備の進捗状況、ミーティングの実施状況	C
3. 執行部と事務室の連携を促進、強化するための学長室会の定期的開催、教員と職員合同の研修会の開催。	→学長室会の開催状況、教員と職員合同の研修会の開催状況	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

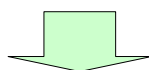
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	<p>①学校法人関西学院は、寄附行為に「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する」と定めている。また、2010年度は、寄附行為にもとづき、常務理事1名および常任理事4名が選任されており、それぞれ理事長の指示に従い業務を処理し、理事長を補佐する管理運営体制となっている。</p> <p>②理事会は、その役割が寄附行為に「学校法人の業務を決し」と定められており、開催については、寄附行為施行細則に定期理事会は毎月1回、臨時理事会は理事長が必要と認めた場合とされている。2009年度は、定期理事会を11回、臨時理事会を1回開催した。このように、理事会は、寄附行為に従い適切に運営されている。</p> <p>③監事の主な業務は、寄附行為に次のとおり定められている。 この法人の監査、この法人の財産の状況の監査、監査報告書の作成・提出、不正行為または法令・寄附行為に違反する重大事実の文部科学大臣への報告、理事会および評議員会への出席 監事は、現在各分野の専門家4名（非常勤）を選任して、理事会に毎回出席し、学長及び高中部長から各学校の学事その他について資料を配付されて直接説明を受けるとともに、学校現場に直接出向いて学校長等から聞き取り調査をするなど実地監査を行っている。また、監事会議に内部監査人が出席するとともに、内部監査人が年2回作成する内部監査報告書を監事および独立監査人に提供して、監事監査の支援・充実をはかっている。 このように、監事は寄附行為に従い適切に業務を行っている。</p> <p>④法人の評議員は、定員45名であり、その構成は寄附行為に次のとおり定められている。 学内役職者〔1～3号〕3名（院長、学長、中学部長）、福音主義教役者〔4号〕4名、在日宣教師〔5号〕4名、同窓会員〔6号〕10名、 在学者父母・保護者〔7号〕2名、学識経験者〔8号〕2名、教職員選出〔9号〕15名、功労者・教育理解者〔10号〕5名 評議員会は、寄附行為施行細則に、毎年4回開催することと定められており、2009年度は4回開催された。 このように、評議員会は適切に運営されている。</p> <p>⑤法人の理事の構成は、寄附行為に定める次のとおりである。 学内役職者〔1～5号〕5名（院長、学長、高等部長、宗教総主事、事務局長）、評議員会選出〔6号〕6名（内5名は評議員）、 学識経験者・同窓会員・教育理解者〔7号〕7名、理事長選任〔8号〕3名 理事の定員21名の内、現在の構成は学内教職員11名と学外者10名であり、ほぼ同数となっている。 理事の構成は、学校法人の業務の決定および管理運営にあたり、業務を適切に執行できる体制となっている。</p>
★ 小項目 7.0.2	教授会を定期的で開催し、学則等の規程に基づいて適切に運営している。合併により、従来の委員会体制から新しく執行部体制へ移行したため、運営体制を整備中であるが、学長室会を定期的で開催し、短期大学事務室との連携も概ね順調に進んでいる。
★ 小項目 7.0.3	短大担当職員の配置については、業務の種類が多岐にわたっていることに比較すると人員は不足していると思われる。そのことにより、日常業務を消化することに精一杯で業務改善や研修に時間を割くことが難しい状況である。
★ 小項目 7.0.4	人事管理については、就業規則にしたがって学長および短期大学担当課長が行っている。教員と事務職員の連携については概ね良好と思われる。
★ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	
小項目 7.0.2	学長室会を定期的で開催し、学長、学生主任、教務主任の各業務内容、スケジュール等について確認を行い、概ね整備が進んでいる。
★ 小項目 7.0.3	公印管理、公文書の管理、データの管理等については概ね適切に管理できている。 職員の業務時間調整により年間2回の職場研修を実施することが出来た。
小項目 7.0.4	学長室会の中で教員と職員が緊密に連携して短期大学運営に努めている。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	
小項目 7.0.2	すべての業務内容について精査し、さらに整備を進める。
小項目 7.0.3	短期大学の決裁手順の確認と整備を行う。
★ 小項目 7.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目7.0.1	
小項目7.0.2	新体制の整備に時間をとられ、議論を深めることがあまり出来ていない。
小項目7.0.3	事務組織や職員が学生から支持されているかの検証が出来ていない。
★小項目7.0.4	教員と職員の意思疎通が十分に出来ていない。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目7.0.1	
小項目7.0.2	整備を早急に進め、検討に必要な時間を確保する。
小項目7.0.3	学生に対してアンケートをとり学生の満足度調査を検討する。
★小項目7.0.4	教員と職員の意見交換の場を設定することについて検討する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 教員と職員、並びに職員と学生の意思疎通が十分に行われるための方策の検討が始まっていることは評価できます。その具体的な進展とSD活動のさらなる活発化が期待されます。事務組織も教育研究活動に積極的に関与していくことが求められている現在、特にSD活動の必要性は増しています。
- 教員、職員、学生、同窓生が、また、聖和短期大学が「準拠集団」になるように、「小項目7.0.3 学生の満足度」「小項目7.0.4 教員と職員の意見交換の場」などを多く持つ必要を感じます。

【学内委員】

- 具体的かつ適切に評価されています。
- 理事会等管理運営体制については確立しています。
- 教授会などの運営体制を早急に整備されることが期待されます。なお、効果が上がっている事項には「概ね整備が進んでいる」とされ、改善すべき事項には「議論を深めることがあまり出来ていない」とされています。何の議論か不明ですのでご説明ください。
- 小項目7.0.3の現状説明は曖昧です。小項目の要素などを参照しもう少し具体的な説明をしてください。
- 自己点検・評価は、社会にわかりやすく説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見た程度である程度のことわかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、小項目7.0.1以外の小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。
- 伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「検討する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。
- 2007年度の認証評価において、「教務委員会などの重要な委員会の規程」について指摘されています。現状はどうでしょうか。
- 教授会の定期的開催と説明されています。月1回の開催でしょうか。また、学長室会はどうでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	小項目7.0.2現状説明を次の文書と差し替える。「教授会を月1回(毎月第2水曜日)、その他臨時教授会を適時開催し、2009年度は18回開催した。教授会は、学則等の規程に基づいて適切に運営している。合併により、従来の委員会体制から新しく執行部体制へ移行したため、運営体制を整備中である。学長室会は毎週1回、その他学期末に一日を使い反省評価する機会も設け、2009年度は45回開催した。短期大学事務室との連携も概ね順調に進んでいる。」
	小項目7.0.3現状説明に次の文章を追加する。「職員の研修については学内および学外での研修会に参加した。」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	8 財務
中項目	
小項目	8.0.1 財務運営が適切に行われていること
要素	<p>学校法人及び短期大学は、中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約し、適切な時期に決定しているか。また、決定した事業計画と予算は速やかに関係部門に伝達しているか。</p> <p>年度予算は、適正に執行されているか。日常的な出納業務は円滑に実施され、所管担当責任者を経て理事長に報告されているか。</p> <p>決算終了後の計算書類、財産目録等は、法人の経営状況及び財政状態を適正に表示しているか。これに係る監事の機能は有効に働いているか。また、公認会計士の監査意見への対応は適切か。</p> <p>資産及び資金（有価証券を含む）の管理と運用については、資産等の管理台帳、資金出納簿などに適切な会計処理に基づいて記録され、安全かつ適正に管理されているか。また、寄付金の募集及び学校債の発行は適正か。</p> <p>月次試算表が毎月適時に作成され、財務担当責任者を経て理事長に報告されているか。</p> <p>改正私立学校法の規定に基づき、財務情報を適切に公開しているか。</p>
小項目	8.0.2 財務体質が健全であること
要素	<p>学校法人及び短期大学の経営の状況（資金収支及び消費収支）は、評価を受ける過去3ヶ年にわたり均衡しているか。消費収支計算における収入超過または支出超過の状況について、その理由を把握しているか。</p> <p>学校法人の財政状態（貸借対照表）は健全に推移しているか。短期大学の経営状況が法人の財政にどのような影響を与えているかを把握しているか。</p> <p>短期大学の永続を可能とする学校法人の資金は、健全に維持されているか。余裕資金については、将来計画を見込んで目的別に引当資産化しているか。単に現預金だけに留保資金が集中していないか。</p> <p>短期大学の教育研究経費は、評価を受ける過去3ヶ年の平均が帰属収入の20%程度を超えているか。短期大学に係る教育研究用の施設設備及び学習資源（図書等）についての配分は適切か。</p> <p>財務体質は定員充足率いかんにかかっており、過去3ヶ年の平均及び直近年度の充足は妥当か。過去3ヶ年の収容定員充足率に相応した財務体質を維持しているか。</p>
小項目	8.0.3 短期大学に必要な施設設備が整備され、その管理が適切に行われていること
要素	<p>固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等の財務諸規程を含め整備し、施設設備、物品（消耗品、貯蔵品等）を適切に管理しているか。</p> <p>施設設備の維持管理について、火災等災害対策、防犯対策、避難対策に対処した整備及び定期的な点検訓練がなされているか。コンピュータシステムのセキュリティ対策は適切か。</p> <p>施設設備の維持管理において、省エネ・省資源対策、その他地球環境保全の配慮がなされているか。</p>

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 法人全体として強固な財政基盤を確保するため、以下の目標を設定する。 ①帰属収支差額比率：10.5% ②純人件費比率：52.3%（過去5年間平均） ③総人件費比率：56.4%（過去5年間平均） ④教育研究経費比率：33%程度を維持 ⑤寄付金比率：3.0%（2007年度全国平均）を目指す	→①帰属収支差額比率、②純人件費比率、③総人件費比率、④教育研究経費比率、⑤寄付金比率	⇒
2. 事業評価結果に基づく予算事前折衝を導入する。	→事業評価結果に基づく予算事前折衝の導入	⇒
3. 法人としての新基本構想のビジョン実現および資金の有効活用の視点から内部監査を実施し、業務および会計処理の改善を行う。	→内部監査の結果、指摘・提言に対する改善状況	⇒

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	⇒ ☆
	→	⇒ ☆

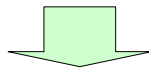
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目8.0.1	(現状説明)
☆	小項目8.0.2	(現状説明)
☆	小項目8.0.3	(現状説明) 固定資産管理、施設維持管理についてはキャンパス事務室に担ってもらい、報告をうけている。図書管理については短期大学図書館で管理を行ってもらっている。なお、「図書管理規程」については法人として整備し、利用に供している。
☆	その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

	小項目8.0.1	
	小項目8.0.2	
☆	小項目8.0.3	「固定資産管理規程」に基づき管理を行い、聖和大学から関西学院へのシール張替え作業を行って管理の移行作業を進めている。施設管理においては委託管理者と協力し、定期点検整備を行い授業に支障が出ないようにしている。また、図書については「図書管理規程」により明示された資料種別ごとに、貸出等のサービスを行っている。
	その他	



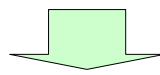
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

	小項目8.0.1	
	小項目8.0.2	
☆	小項目8.0.3	資産管理で短大独自の備品棚卸し業務を実施できるよう台帳の整備（保管場所等の明確化）を行う。また、「図書管理規程」の資料種別や利用条件等について、ニーズに適したものであるか、定期的に検討する。
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

	小項目8.0.1	
	小項目8.0.2	
☆	小項目8.0.3	聖和大学の備品シール（廃棄処理済み品）が混在しているのでシールの除去作業を行う必要がある。また、特に不具合は生じていないが、短期大学図書館としての資料提供上支障がないか、継続的なチェックが必要である。
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

	小項目8.0.1	
	小項目8.0.2	
☆	小項目8.0.3	備品台帳と照合しながらシールの除去作業を行う。また、図書については「図書管理規程」上の資料種別などが、提供する資料に応じたものであるか、毎年度検討する。
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

- ★ その他 (自由記述) 短大独自で行える火災・地震避難訓練等を行う計画書の作成。また、図書については「図書管理規程」により、今後も適切な資料管理・提供に努める。

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 【学内委員】
- 小項目8.0.1と8.0.2の現状説明がありません。説明してください。
 - 目標についての進捗評価がありません。記入してください。
 - 効果が上がっている事項の小項目8.0.3は、現状説明ではないでしょうか。
 - 小項目8.0.1の現状説明において、「キャンパス事務室に担ってもらい」との表現はいかかなものでしょうか。「聖和キャンパス事務室(キャンパス担当)が担い」でいいのではないのでしょうか。また、「報告をうけている」とはどこが受けているのか。図書管理についても同様です。また、キャンパス事務室だけでは学外者には分からないでしょう。
 - 自己点検・評価は、社会にわかりやすく説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見ただけである程度のことがかかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。
 - 伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「検討する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。
 - 2007年度の認証評価において、「避難訓練の定期的な実施」について指摘されています。自由記述をもう少し説明してください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 評価結果を受けて、以下のとおり追加記述する。

Ⅱ. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 強固な財政基盤を確保するため、以下の目標を設定する。 ① 帰属収支差額比率：10.5% ② 純人件費比率：52.3% (過去5年間平均) ※消費収支計算における帰属収入に占める人件費の割合 ③ 総人件費比率：56.4% (過去5年間平均) ※消費収支計算における帰属収入に占める人件費および業務委託費の割合 ④ 教育研究経費比率：33.0%程度を維持 ⑤ 寄付金比率：3.0% (2007年度全国平均) を目指す	→① 帰属収支差額比率、② 純人件費比率、③ 総人件費比率、④ 教育研究経費比率、⑤ 寄付金比率	C
2. 事業評価結果に基づく予算事前折衝を導入する。	→事業評価結果に基づく予算事前折衝の導入	D
3. 法人としての新基本構想のビジョン実現および資金の有効活用の視点から内部監査を実施し、業務および会計処理の改善を行う。	→内部監査の結果、指摘・提言に対する改善状況	A

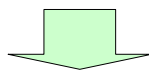
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★	小項目8.0.1	<p>(方針) 安定した財政構造確立のため、財務評価指数の目標値を設定する。</p> <p>(現状説明) 本学では、法人内の学校ごとのセグメント計算書を予算・決算時に作成し、収支状況を適宜把握するよう努めている。たとえ、支出超過部門があったとしても、それはオール関西学院で支えていくという方針の元、これまで運営を行ってきた。ただ、昨今では保証人をはじめとする学院関係者への説明責任を果たす上で、法人として、学校ごとで収支改善に向けた方策を考えるようになってきている。</p> <p>1. 予算編成はスケジュールに沿って実施している。現行の予算制度は、各部にあらかじめ予算ガイド額を提示することにより、予算編成時に事業のスクラップ&ビルドを促す制度となっている。そして、執行にあたっては、予算通知時に「予算の適正な執行にあたっての注意」を示し、執行ルールの明確化・適正化を心がけている。</p> <p>2. また、決算時には各部に成果報告書の提出を義務付けているが、法人として予算執行内容を分析・検証し、次年度の予算に反映する仕組みが欠如しており、その部分を補完するための新たな仕組みづくりが必要と考えている。</p> <p>3. 当該期間の内部監査については、8つの部局を対象とした部局ごとの業務・会計監査、14事業計画を対象とした事業評価の検証および補助金事業の監査を実施した。特に統括部局については、新基本構想のビジョン実現の視点で監査を実施した。監査の結果、指摘・提言事項については、理事長から被監査部局に対して、検討を要請し回答を求めた。2008年度下半期および2009年度上半期監査の指摘・提言事項については回答があり、会計処理、資産管理、募金活動、教育研究支援活動、補助活動事業、各種プログラム運営、制度や手続、組織統合等について改善報告があった。この中には、すぐに解決できない事項もあるが、多くは改善済または改善中である。また、各部局に共通する会計処理の改善点については、予算連絡会で注意を喚起し、常務理事からの「予算の適正な執行にあたっての注意(お願い)」の文言も一部修正された。実地監査にあたっては、被監査部局の課題・問題点について話し合い、当該部局の自主的な改善努力にも協力している。</p>
★	小項目8.0.2	<p>(現状説明) 2009年4月1日に本学は学校法人 聖和大学と合併し、現在に至っている。承継法人である本学では、幼稚園から大学・大学院、さらには専門職大学院までの学校を擁し、学校法人全体としての資金管理を法人の財務部でおこない、各学校は収入にもとづく独立採算制ではなく、毎年、決定された予算により運営する方式を取っている。</p> <p>1. 「新基本構想」実現のため、2009年度～2013年度の5年間にわたる施策が「新中期計画」として策定された。ただ、現時点では素案のものも多く見られるため、新中期計画等の施設設備投資額を10～12億円規模と想定し、2018年度までの財政見通しを立案している。</p> <p>2. 消費収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率をもとに現状把握に努め、比率の適正化に向け、各部に協力を働きかけている。</p>

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目8.0.1	予算ガイド額提示方式による事業計画別予算制度を導入し、各部に執行裁量権を委譲したことで、予算時に策定した事業については、その計画達成に向け、期中により有効と思われる執行を行い、弾力的な対応を心がけるようになってきている。また、執行ルートを明確化するとともに、監査法人による外部監査での指摘事項を、指摘を受けた部署の予算責任者にフィードバックすることで、適正な執行を促している。さらに、内部監査で判明した事象については、内部監査室として各部に改善要請を行っており、一定の効果を挙げている。
	小項目8.0.2	1. 教職員に中長期の財政見通しを明示することで、以前に比べ、学院の財政状況にある程度、理解してもらえるようになってきている。



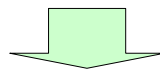
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目8.0.1	学校の予算は、総じて硬直化しやすい傾向がある。特に、学部予算については前年までの事業内容に縛られる傾向が強く、従来の事業を見直して新たな事業を創出するという、いわゆる「スクラップ&ビルド」は思うように進まず、弾力性を欠いてきている。そのため、予算責任者に現行の予算制度を再確認してもらうことで、各部のスクラップ&ビルドを促す契機としたい。
	小項目8.0.2	より分かりやすく学院の将来見通しを含む財政状況を明示し、理解を求めることで、各部がこれまで以上に積極的に事業のターミネイトを図る必要がある。そのためにも、新たなガバナンスの構築が必須要件と思われる。

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目8.0.1	各学校ごとで実施した事業の点検・評価を厳格に行うと共に、その評価結果に基づいた予算配分の重要性を法人として認識し、コンセンサスを得ることが必要と思われる。
	小項目8.0.2	教職員の学院財政についての理解は、以前に比べ格段に進んではいるが、それでもなお、「各部は実施したい事業を考えればよく、資金については法人が考えること」といった考えが存在している。新たなガバナンスの構築とともに、このような考えについての意識改革を図るため、財政状況理解に向けた地道な活動が必要と考える。



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目8.0.1	新たなガバナンスの構築
	小項目8.0.2	財務指標を含め、強固な財政基盤を確保するための方策について、2010年度の財務改革・業務改革本部で引き続き検討の予定。

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	9 改革・改善
中項目	
小項目	9.0.1 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること
要素	自己点検・評価のための規程及び組織を整備し、定期的に自己点検・評価を行っているか。 定期的に自己点検・評価報告書が公表されているか。
小項目	9.0.2 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること
要素	自己点検・評価活動には出来るだけ多くの教職員が関与するよう配慮されているか。 自己点検・評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。
小項目	9.0.3 相互評価（独自に行う外部評価を含む。以下、評価の観点も同じ）への取組みに努力していること
要素	前の第三者評価から今回までの間に相互評価を実施したか。 相互評価のための規程及び組織を整備し、定期的に相互評価を行っているか。 相互評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。
目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 毎年の自己点検・評価の実施	→目標、指標の設定。毎年の自己点検・評価報告書の作成。2013年度の認証評価報告書作成。	C
2. 専門領域を同じくする松山東雲短期大学との相互評価の継続と結果の活用	→定期的な検討会の実施状況。検討の進捗状況。報告書作成。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

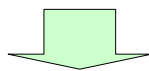
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目9.0.1	関西学院の自己点検・評価制度（「新たな自己点検・評価」）の下、内発的で自律的な発展への循環過程（PDCAサイクル）を強化するため、認証評価と連動させて自己点検・評価を毎年行うことになった。初年度である今年は5年間を見通した目標の設定を行った。
☆ 小項目9.0.2	短期大学内の自己点検・評価についてのシステム構築ができていない。
☆ 小項目9.0.3	今年度は2008年度より開始した松山東雲短期大学との大学間相互評価の2年目にあたり、2010年3月に本学が東雲短期大学を訪問し、相互評価を実施した。現在、報告書を作成中である。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目9.0.1	自己点検・評価が毎年行われるようになったことにより、短期大学の運営すべてにおいて自覚的に取り組む姿勢ができてきた。
小項目9.0.2	
★小項目9.0.3	専門領域を同じくする他校を評価することをおして、本学の教育内容、方法等を見直す良い機会となっている。
その他	



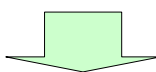
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目9.0.1	毎年の自己点検評価を継続する。
小項目9.0.2	
★小項目9.0.3	今後の相互評価の継続についての手続き、相互評価の内容等についての検討。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目9.0.1	短期大学基準協会の評価基準改定に伴い、再検討が必要。
小項目9.0.2	自己点検・評価に関わる業務が一部の者の負担となっている。
★小項目9.0.3	相互評価の成果を活用できていない
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目9.0.1	新しい評価基準について検討する。
小項目9.0.2	自己点検・評価に全教職員が関与できる体制を検討する。
★小項目9.0.3	相互評価についての報告書を作成後、自己点検・評価内容をさらに深め、次への取組みにつなげる。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○聖和短期大学が大きな変化をなしている時に、積極的に自己点検・評価に取り組み、それをよりよい学校運営のための改革に結びつけようとする姿勢が見られます。その際、自らの立ち位置を客観的に把握し、常に短期大学としての独自性をも出していく努力が期待されます。

○全体として「進捗評価」がすべて「C」と「D」ですが、年度ごとの目標と実行に対する評価をもっと重視し、積極的に評価すればもう少し良いと思いますが、いずれにせよ「C」と「D」がもっと少なくなることを望まれます。

【学内委員】

○小項目9.0.1において、短期大学自己評価委員会規程が設定され、自己評価委員会が〇〇人で活動を始めたことの記載が望まれます。

○自己点検・評価は、社会にわかりやすく説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見ただけである程度のことわかる必要があります。そのためにも要素など参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。

○伸長させるための事項、改善方法の記述において「検討する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

○改善すべき事項の小項目9.0.1における、「再検討」は何の再検討が分かりません。記述をお願いします。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目9.0.1現状説明に次の文章を追加する。「また、短期大学自己評価委員会規程が設定され、自己評価委員会が3名で活動をはじめた。」

改善すべき事項9.0.1を差し替える「短期大学基準協会の評価基準改定に伴い、新しい評価基準についての再検討が必要。」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	10 キリスト教主義教育
中項目	
小項目	10.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。
要素	
小項目	10.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(KG1)方針、実施内容

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。
目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等によるキリスト教主義教育の実践	→オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等の実施状況。	C
2. 教職員に対する研修会の開催。学校礼拝、諸教行事などへの積極的な参加。	→研修会の実施状況、学校礼拝、諸行事への参加状況。	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

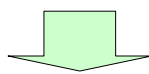
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 10.0.1	学校礼拝は、授業のある日は原則として毎日行われている。特に木曜日は、50分間のロングチャペルを実施している。聖和短期大学宗教主事が学校礼拝を運営し、聖和短期大学附属キリスト教教育・保育研究センターは、展示会、研究会等の開催をととして短期大学のキリスト教主義教育を担っている。
☆ 小項目 10.0.2	キリスト教関係科目を必修科目として各学年に開講する教育課程を編成している。毎日行われる学校礼拝、クリスマス等キリスト教関係行事への参加が奨励され、またキリスト教保育を行っている聖和幼稚園での実習や行事等への参加をととして、さらにキリスト教への理解が深められている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

☆ 小項目 10.0.1	1年次の学校礼拝、キリスト教関係行事等への参加については、宗教主事、キリスト教関係科目担当者、アドバイザー等が連携し、礼拝出席を奨励する体制をとっている。
☆ 小項目 10.0.2	宗教主事、キリスト教関係科目担当者、アドバイザー等の連携により、特に1年次の学校礼拝、キリスト教関係行事への出席が安定している。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

☆ 小項目 10.0.1	2年次アドバイザーとの連携体制を整える。
☆ 小項目 10.0.2	月曜日の定型礼拝（聖書物語の朗読）をゼミ・アドバイザークラス単位で担当する。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目 10.0.1	聖和キャンパスを共有する聖和短期大学と関西学院大学教育学部が別々に礼拝を行っているため、キャンパス全体としては複雑な礼拝運営になっている。教職員の学校礼拝、キリスト教関係行事等への参加が少ない。
★ 小項目 10.0.2	すべての学生が卒業までに一度は必ずキリスト教主義の幼稚園や保育所で実習を行い、キリスト教保育を経験できるようにこれまで配慮してきたが年々困難になりつつある。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目 10.0.1	関西学院大学教育学部と調整をし、曜日毎に礼拝を担当する等の連携によって、キャンパス全体の礼拝運営を検討、実施する。学校礼拝、キリスト教関係行事、キリスト教教育・保育センター主催の展示会、研究会等について、教職員への周知徹底と積極的な参加の呼びかけを行う。
★ 小項目 10.0.2	実習園として聖和幼稚園以外のキリスト教主義幼稚園・保育所を開拓し、連携を進める。また、本学の教育目標等を実習先に丁寧に説明する機会をもつ。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】
 ○教育目標に照らして重要な項目なので、カリキュラムの中でもしっかり位置づけられることが大切です。
 ○「礼拝は適切に行われている。」ことは評価でき、宗教主事が適切に運営していることが伺えます。しかし、同じキャンパスにある関西学院大学教育学部、また、関西学院大学神学部との連携を密にする必要が感じられます。
 ○改善すべき項目の「教職員の学校礼拝、キリスト教関係行事への参加が少ない」ことは、建学の精神から考えて改善しなければなりません。

【学内委員】
 ○具体的かつ適切に評価されています。
 ○キリスト教主義教育につき努力されていることが伺えます。
 ○小項目10.0.2の現状説明において、キリスト教主義教育の方針について明示してください。
 ○自己点検・評価は、社会にわかりやすく説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートをみただけである程度のことかわかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。
 ○効果が上がっている事項の小項目10.0.1は現状説明ではないでしょうか。
 ○伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「検討する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目10.0.2現状説明を次の文章と差し替える。「教育目標である『キリスト教精神に基づく豊かな人間性、専門性、実践力を兼ね備えた保育者の育成』に基づき、キリスト教関係科目を必修科目として各学年に開講する教育課程を編成している。毎日行われる学校礼拝、クリスマス等キリスト教関係行事への参加が奨励され、またキリスト教保育を展開している聖和幼稚園での実習や行事等への参加をとおして、さらにキリスト教への理解が深められている。」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	11 人権教育・人権問題
中項目	
小項目	11.0.1 人権教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(KG1)方針、実施内容 (KG2)人権意識の涵養とその現状
小項目	11.0.2 人権問題への対応を適切に行っているか。
要素	(KG1)ハラスメント防止のための措置の適切性 (KG2)セクシャル・ハラスメント防止への対応 (KG3)アカデミック・ハラスメント防止への対応 (KG4)その他ハラスメント防止への対応 (KG5)人権侵害の防止とその対応

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 人権に関するオリエンテーションおよびパンフレットの充実	→オリエンテーションの実施状況およびパンフレットの検討の進捗状況。	C
2. 保育者としての人権意識を涵養するための教育の検討	→人権関連科目の履修状況、授業内容の検討状況。	C
3. ハラスメントに関する相談ルートの整備および周知徹底。	→ハラスメントに関する相談ルートの整備状況および学生への周知。	C
4. 教職員の人権関連:研修会への積極的参加	→研修会への参加状況	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

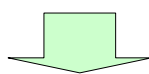
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 11.0.1	新入生オリエンテーション、アドバイザーアワーや授業を通して人権教育を実施している。
☆ 小項目 11.0.2	新入生オリエンテーションを利用してパンフレットを配りハラスメントについて説明し、人権の担当者等について学生への周知を図っている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目 11.0.1	特に保育者養成に関する科目には人権に関わる内容を含んだものが多く、人権意識が徐々に浸透している。
	小項目 11.0.2	
	その他	



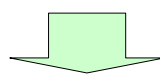
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目 11.0.1	特に保育者としての人権意識を涵養するために、職業倫理などについても授業に含め充実する。
	小項目 11.0.2	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目 11.0.1	人権に関するオリエンテーションやパンフレットの内容について、再検討する必要がある。
	小項目 11.0.2	人権に関する研修会への教職員の参加が少ない。
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目 11.0.1	オリエンテーションの内容の検討及び新パンフレットの作成。
	小項目 11.0.2	ハラスメントに関する相談ルートの整備をする。教職員の人権意識の向上を図るために、研修会等への参加を促進する。
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 学生に対する人権教育は、パンフレットなどの改善に取り組んでいることが評価できます。
- 関西学院と合併したことに対する、経過観察、問題点の洗い出しが行われているのでしょうか。
- 四年制学部と、短期大学との人権問題は無いのでしょうか。

【学内委員】

- 本項目は聖和短期大学独自の項目です。その取り組みについて期待します。
- 次年度に向けた方策の中に抽象的のがあります。具体的に記述することが期待されます。
- 小項目11.0.1の現状説明において、人権教育の方針について記述を求めます。また、アドバイザーアワーについて説明を加えてください。
- 小項目11.0.2の現状説明については、相談室や相談員の記述を求めます。
- 自己点検・評価は、社会にわかりやすく説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見ただけでは程度のことかわかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。
- 効果が上がっている事項の小項目11.0.1に「徐々に浸透している」との記述がありますが、何を以てそう言えるのでしょうか。
- 伸長させるための事項、改善方法の記述において「再検討する」「促進する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 小項目11.0.1現状説明を次の文章と差し替える。「新入生オリエンテーション、アドバイザーアワー（学生生活全般について相談・助言し、また、学生相互の話し合いや様々な形での交わりの時）や授業を通して人権教育を実施している。」
- 小項目11.0.2現状説明に次の文章を追加する。「2名の相談員を設定し対応している。」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	12 ボランティア活動・教育
中項目	
小項目	12.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(KG1)方針、実施内容
	(KG2)ボランティア活動実践への対応
	(KG3)ボランティア活動に関する課題の把握
	(KG4)ボランティア教育の現状

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. ボランティア活動の意義についてのしおりの作成と活用	→しおりの内容の検討と作成。配付。	D
2. ボランティア活動実施のための情報提供、支援体制の整備	→学生のボランティア活動への参加状況、情報提供の件数。	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

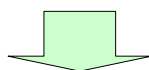
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 12.0.1	ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして行う体制が整っていない。しかし、学生が個人的に実習施設や教員が関わっている事業のボランティアに参加している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

☆ 小項目 12.0.1	ボランティアの募集の案内を掲示することにより、多くの学生が自主的にボランティア活動に参加している。
☆ その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

☆ 小項目 12.0.1	ボランティア活動の意義についてのしおりの内容を検討する。
☆ その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
★ 小項目 12.0.1	ボランティア活動実施のための支援体制が整っていない。
★ その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
★ 小項目 12.0.1	ボランティア活動実施のための支援体制をつくる。
★ その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○乳幼児を援助する基本は、キリスト教の奉仕の精神であり、愛の精神です。建学の趣旨から、学校当局と、学生の自主的な体制を作る必要があります。

【学内委員】

○適切に評価されています。しかし、改善方策が抽象的です。人的資源の問題など障害はあるとは思いますが、関西学院大学や、西宮市内の大学の連携組織などを利用することで改善を進めることが期待されます。

○現状説明の小項目12.0.1において、方針の明示を求めます。

○自己点検・評価は、社会にわかり易く説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見た程度である程度のことが必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。

○ボランティア活動の実態を把握することは困難ですが、できるだけ把握されることを期待します。参加回数などの説明に期待します。

○効果が上がっている事項の小項目12.0.1で「多くの学生が・・・参加している」だけでは曖昧です。人数を示してください。

○伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「検討する」「体制をつくる」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 効果が上がっている事項小項目12.0.1を次の文書と差し替える。「ボランティアの募集の案内を掲示することにより、「神戸市民福祉振興教会主催の障害児ファミリーデイキャンプ」「日本医療保育学会のボランティア」「全国心臓病の子どもを守る会兵庫支部主催のサマーキャンプ」「関西学院聖和幼稚園での病弱児保育」など、多くの学生が自主的にボランティア活動に参加している。」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	13 国際交流
中項目	
小項目	13.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	13.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性
小項目	13.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際理解のための教育 (KG2) 国際協力の実践

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 短期大学における国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の明確化	→国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の策定	D
2. グローバル化した阪神間の地域特性に合わせた国際感覚やコミュニケーション能力をもった保育者を育てるための教育の推進	→国際理解のための教育の実施状況、国際交流プログラムの参加状況	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

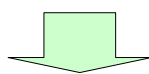
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 13.0.1	国際交流についての方針は明示できていない。
☆ 小項目 13.0.2	国際レベルでの教育研究はあまり実施できていない。
☆ 小項目 13.0.3	国際理解のための教育については、一部の授業や礼拝で取り上げている。国際協力の実践としては学生が自主的な活動として行っているが、短期大学として組織的に行っていない。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 13.0.1	
小項目 13.0.2	
☆ 小項目 13.0.3	国際理解のための教育については、一部の授業や礼拝で取り上げている。国際協力の実践としては学生が自主的な活動として行っている。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 13.0.1	
小項目 13.0.2	
☆ 小項目 13.0.3	学生が自主的に取り組んでいる活動を、学生・教職員に紹介する機会をつくる。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
★	小項目 13.0.1 国際交流の方針が明示されていない。
	小項目 13.0.2 国際レベルでの教育研究交流が実施されていない。
	小項目 13.0.3 国際教育・協力のための教育が十分実施されているとはいえない。
	その他

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
	小項目 13.0.1 国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の策定。
★	小項目 13.0.2 本学の専攻である「保育の分野」における国際交流のプログラムについて検討する。教員の国際会議等への参加を奨励する。
	小項目 13.0.3 保育におけるグローバル化に対応できる国際感覚を身につけ、外国籍の人とのコミュニケーション能力を持った保育者を育てるための教育内容について検討する。
	その他

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★	その他 (自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の策定が出来る限り早くなされることが望まれます。
- ますますグローバル化する、例えば多国籍化する保育現場のニーズに対応できる保育者の養成にとっては、国際交流や英語コミュニケーション力アップと並んで、ある意味ではそれ以上に国際理解のための教育がカリキュラムの中に位置づけられて推進されることが期待されます。
- 国際交流の基本方針を早急に策定し、教員個人としてだけでなく、聖和短期大学として国際交流を推進していくことを期待します。
- 海外へ出て行く国際交流もありますが、地域に根ざした国際交流も探し出すことを期待します。
- また、学生の中の在住外国人との交流も行うようにしたいものです。

【学内委員】

- 適切に評価されています。しかし、改善方策が抽象的です。人的資源の問題など障害はあるとは思いますが、具体化することが期待されます。
- 小項目13.0.2の現状説明、教員の国際交流について説明をお願いします。
- 自己点検・評価は、社会にわかり易く説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見ただけである程度のことわかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、全小項目についてももう少し現状説明をお願いします。効果が上がっている事項、改善すべき事項に記述されていることを現状説明の中に加えることも必要かと思えます。
- 効果が上がっている事項の小項目13.0.3は、現状説明ではないでしょうか。
- 伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「検討する」「促進する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 効果が上がっている事項13.0.3を次の文章と差し替える。「国際理解のための教育については、『子どもと人権』『キリスト教保育Ⅰ』など授業や礼拝で取り上げている。ネパール文化交流事業に参加するなど、国際協力の実践としては学生が自主的な活動として行っている。」

進捗状況報告シート

(2010年度・聖和短期大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	聖和短期大学
大項目	14 危機管理
中項目	
小項目	14.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 短期大学が管理すべき危機の整理、検討および危機管理の基本方針、体制の確立	→危機管理基本方針の策定および実施マニュアルの作成の実施状況	C
2. 全構成員の危機管理意識向上のための研修会および避難訓練等の開催	→研修会および避難訓練等の実施状況	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 14.0.1	「関西学院における緊急事態・不祥事の広報体制について」を基本として、短期大学の危機管理体制構築の検討を進めている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

☆ 小項目 14.0.1	
☆ その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

☆ 小項目 14.0.1	
☆ その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

☆ 小項目 14.0.1	危機管理体制が確立できていない。
☆ その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

☆ 小項目 14.0.1	早急に危機管理体制（案）を作成する。
☆ その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 社会全体がますます不安定化している今日、教育機関においても様々な危機管理の確立が喫緊の要事となっています。種々の検討・研究を経て、しっかりした危機管理体制の構築が早くなされることが望まれます。
- 1995年の阪神淡路大震災の甚大な被害を受けた学校として、マニュアル整備が不十分なことは残念です。
- 危機は何時発生するか分からない、何処で発生するか分からない。その危機に対する対処は、マニュアルを作成し、教職員を中心に、学生にも、対応できるようにすべきです。
- 校内の危機管理と同時に、通学途中の連絡方法等のマニュアルも必要です。

【学内委員】

- 関西学院全体の課題として改善の方策を検討する必要があります。
- 自己点検・評価は、社会にわかり易く説明し本学の情報を発信する役目もあり、認証評価に繋げることも重要です。また、本シートを見ただけである程度のことかわかる必要があります。そのためにも要素などを参照され、もう少し現状説明をお願いします。その際、できるだけ具体的な記述をお願いします。「検討を進めている」だけでは曖昧です。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 小項目14.0.1現状説明を次の文章と差し替える。「『関西学院における緊急事態・不祥事の広報体制について』を基本として、短期大学の危機管理体制構築の検討を進めている。特に、サマーセミナー、入学試験などの行事については、緊急時の対応の方法（避難方法・避難経路・連絡体制）をその都度検討し確認している。」